



健康笑い塾主宰・薬剤師 中井宏次さん(68) 淡路市岩屋

「仕事は楽しく、人生はおもしろく」。55歳で淡路島に移住し、「笑い」で豊かな暮らしを指南する講演会を全国で開く。「コロナ禍の今だからこそ、笑うことで良いアイデアが生まれる」と力を込める。

笑いの文化にあふれる大阪で生まれ育った。大阪薬科大学では落研に所属。今も「薬家きく臓」の名で落語をたしなむ。卒業後は大手製薬会社で働いた。50歳で甲状腺ガンを患い「笑いと免疫力」を深く考えるように。笑いを学問とする「日本笑い学会」(大阪)に入り研さんを積んだ。5年後に早期退職し「薬の次は笑いで社会貢献を」とNPO法人「健康笑い塾」を創設。講演活動を開始した。

テーマは「健康」のみならず「経営」「教育」と多岐にわたる。「あらゆるものにユーマを組み合わせること

笑いで豊かな暮らしを

で、脳が鍛えられアイデアが育つ」と説く。なぞなぞや駄じやれ、川柳なども役に立つといい、毎朝鏡に向かう笑顔体操や、「ありがとう」「楽しい」など、前向きな言葉を勧める。講演は徐々に評判を呼び、年間約100件の依頼を受けるまでに。今年1月には活動の集大成となる著書「笑は咲にして勝なり」を発刊した。

移住先に淡路島を選んだのは、明石海峡大橋の景色にほれ込んだから。橋を望む高台に居を構えた。「島は人柄がいい。満足度の高い生活を送る環境があるからだろう」と中井さん。「都会では気付かない、人生に本当に必要なものを島が教えてくれた」と話す。

(内田世紀)

しま模様
ひと模様